

令和6年度(2024)
全国及び市学力・学習状況調査に係る結果について

出雲市教育委員会

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査に係る結果について

出雲市教育委員会では、学校、家庭及び地域による学力向上の取組をより一層推進していくために、全国及び市学力・学習状況調査の結果をまとめました。

この調査結果をもとに、市教育委員会及び学校では、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等を図ります。

なお、この学力調査結果は、学力の一部であり、学力の全てを表すものではありません。

1 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和6年4月18日(木)

(2) 対象学年及び教科

- ・小学校第6学年〔国語・算数・学習状況調査〕
- ・中学校第3学年〔国語・数学・学習状況調査〕

(3) 平均正答率(%)

① 小学校第6学年

教科	国語		算数	
年度	R5	R6	R5	R6
出雲市	67	68	60	62
島根県	65	67	59	61
全国	67.2	67.7	62.5	63.4
市と県の差	+2	+1	+1	+1
市と国の差	-0.2	+0.3	-2.5	-1.4

② 中学校第3学年

教科	国語		数学	
年度	R5	R6	R5	R6
出雲市	71	58	50	50
島根県	70	57	48	49
全国	69.8	58.1	51.0	52.5
市と県の差	+1	+1	+2	+1
市と国の差	+1.2	-0.1	-1.0	-2.5

- ・小学校第6学年は、国語、算数ともに島根県及び全国平均正答率と「同程度」であった。
- ・中学校第3学年は、国語は、島根県及び全国平均正答率と「同程度」であった。数学は、島根県平均正答率と「同程度」であり、全国平均正答率を「やや下回った」。

2 出雲市学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和6年4月18日（木）

(2) 対象学年及び教科

- ・小学校第4学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・小学校第5学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・中学校第1学年〔国語、数学、学習状況調査〕
- ・中学校第2学年〔国語、数学、英語、学習状況調査〕

(3) 平均正答率（％）

教科		国語		算数／数学		英語	
年度		R 5	R 6	R 5	R 6	R 5	R 6
小4	出雲市	67.1	68.3	72.8	70.5		
	全 国	70.8	73.4	71.9	72.1		
	市と国の差	-3.7	-5.1	+0.9	-1.6		
小5	出雲市	67.7	61.8	63.6	62.6		
	全 国	70.0	64.9	67.1	64.0		
	市と国の差	-2.3	-3.1	-3.5	-1.4		
中1	出雲市	60.6	63.0	66.8	66.0		
	全 国	59.2	61.3	65.8	64.4		
	市と国の差	+1.4	+1.7	+1.0	+1.6		
中2	出雲市	64.5	66.3	53.3	54.7	45.4	52.4
	全 国	63.9	65.1	53.4	54.7	46.1	52.7
	市と国の差	+0.6	+1.2	-0.1	0	-0.7	-0.3

- ・小学校第4学年は、国語は全国平均正答率を「大きく下回り」、算数は「同程度」であった。
- ・小学校第5学年は、国語は全国平均正答率を「下回り」算数は、「同程度」であった。
- ・中学校第1学年と第2学年の国語、数学及び中学校第2学年の英語は、全国平均正答率と「同程度」であった。

【表記について】

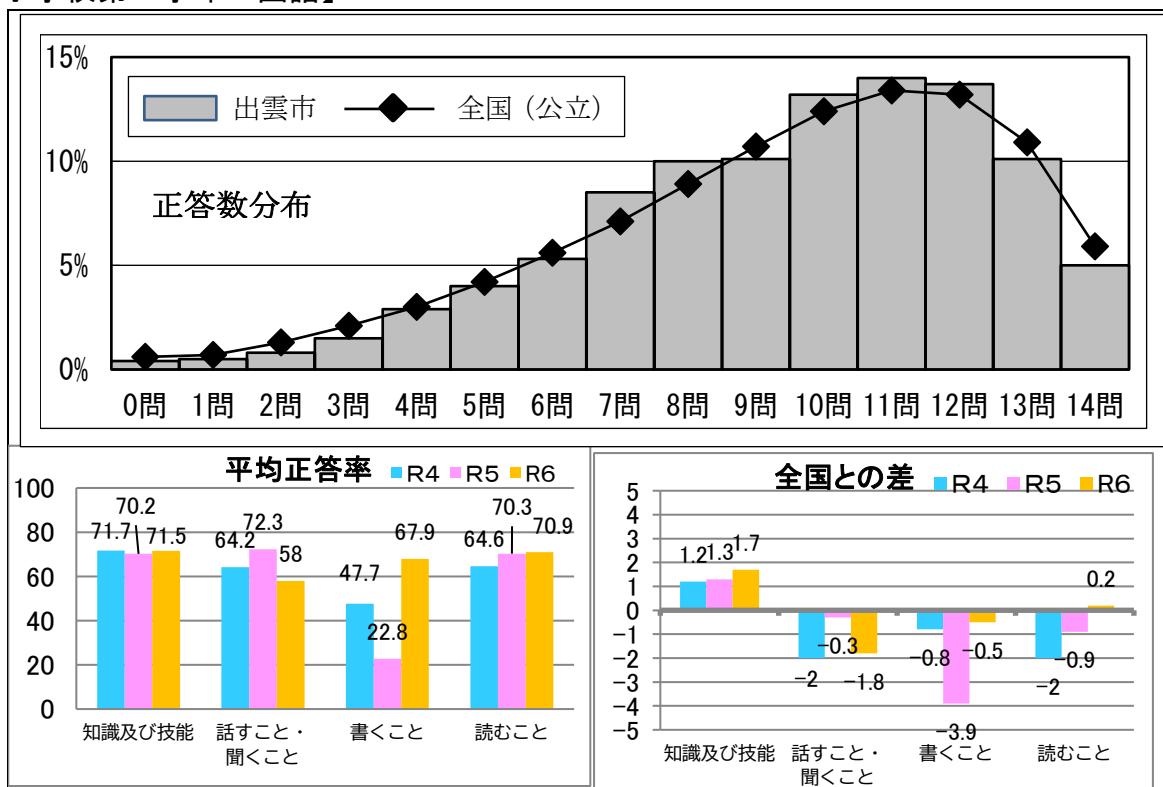
①全国平均正答率と比較した状況について記載するときは、次のように表現する。

- ・ ± 2 未満 「同程度」「差は見られない」
- ・ ± 2 以上、± 3 未満 「やや上回る」または「やや下回る」
- ・ ± 3 以上、± 4 未満 「上回る」または「下回る」
- ・ ± 4 以上 「大きく上回る」または「大きく下回る」

②「結果分析」の欄について記載するときは、成果を○、課題を●とする。

3 全国学力調査の結果について

【小学校第6学年 国語】



- ・高正答率（8割以上の正答：14問中11問以上の正答）の児童の割合は42.8%であり全国（43.4%）と同程度である。中間層（4割から7割の正答：6問から10問の正答）の児童の割合は47.1%であり全国（44.7%）を、やや上回る。
- 無解答率が、14問全ての問題において県及び全国よりも低かった。

知識及び技能

- 市平均正答率は、過去3年間ともに全国平均正答率と同程度であり、年々上昇傾向にある。

《情報の扱い方に関する事項》

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。

思考力、判断力、表現力等

《話すこと・聞くこと》

- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。

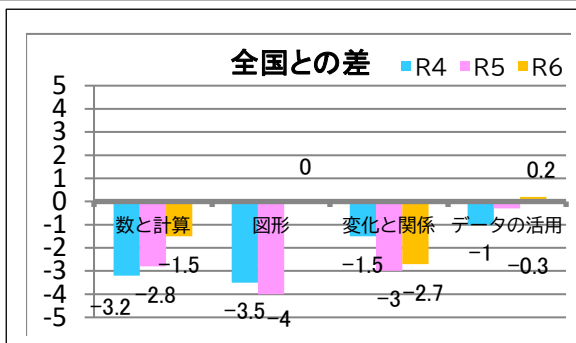
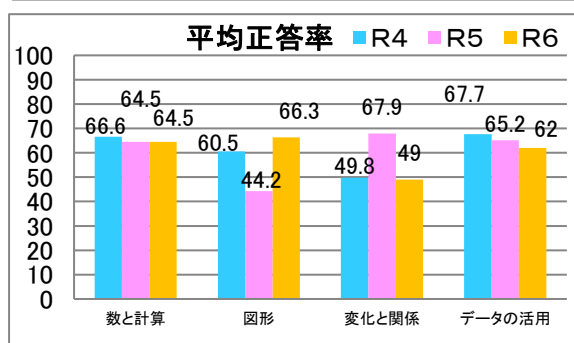
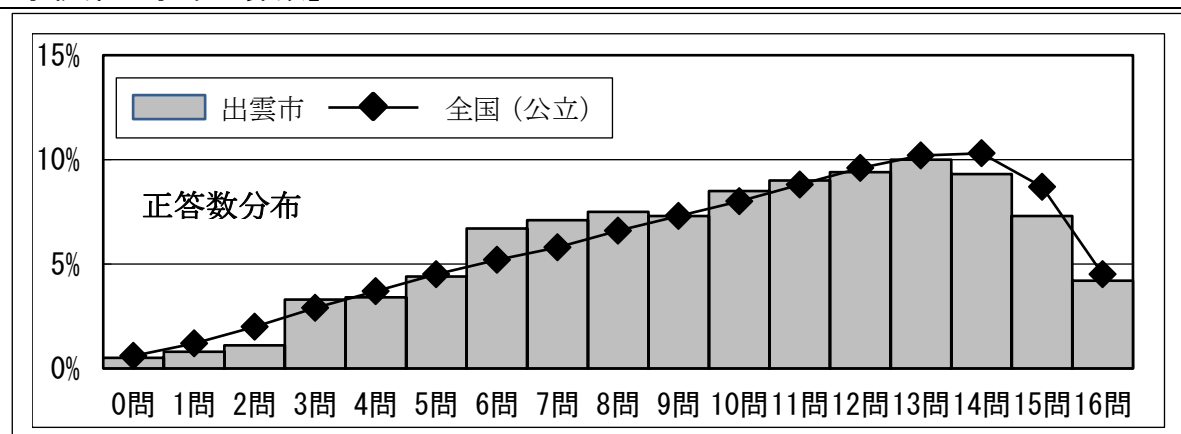
《書くこと》

- 全国平均正答率との比較において、大きく差が縮まっている。
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

《読むこと》

- 全国平均正答率との比較において、改善傾向にあり、全国よりも高くなった。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【小学校第6学年 算数】



・高正答率（8割以上の正答：16問中13問以上の正答）の児童の割合が30.8%であり全国（33.7%）をやや下回る。中間層（4割から7割の正答：7問から12問の正答）の児童の割合は48.8%であり全国（46.1%）をやや上回る。

○無解答率が、16問全ての問題において全国より低く、14問は県より低かった。

数と計算

○全国平均正答率との比較において、全国との差が年々縮まり、同程度となった。

●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題が見られる。

図形

○全国平均正答率との比較において、全国との差が大きく縮まり、同程度であった。

○直方体の見取り図について理解し、かくことができている。

○角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述することができている。

●球の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題が見られる。

変化と関係

●全国平均正答率との比較において、全国との差が依然として大きい。

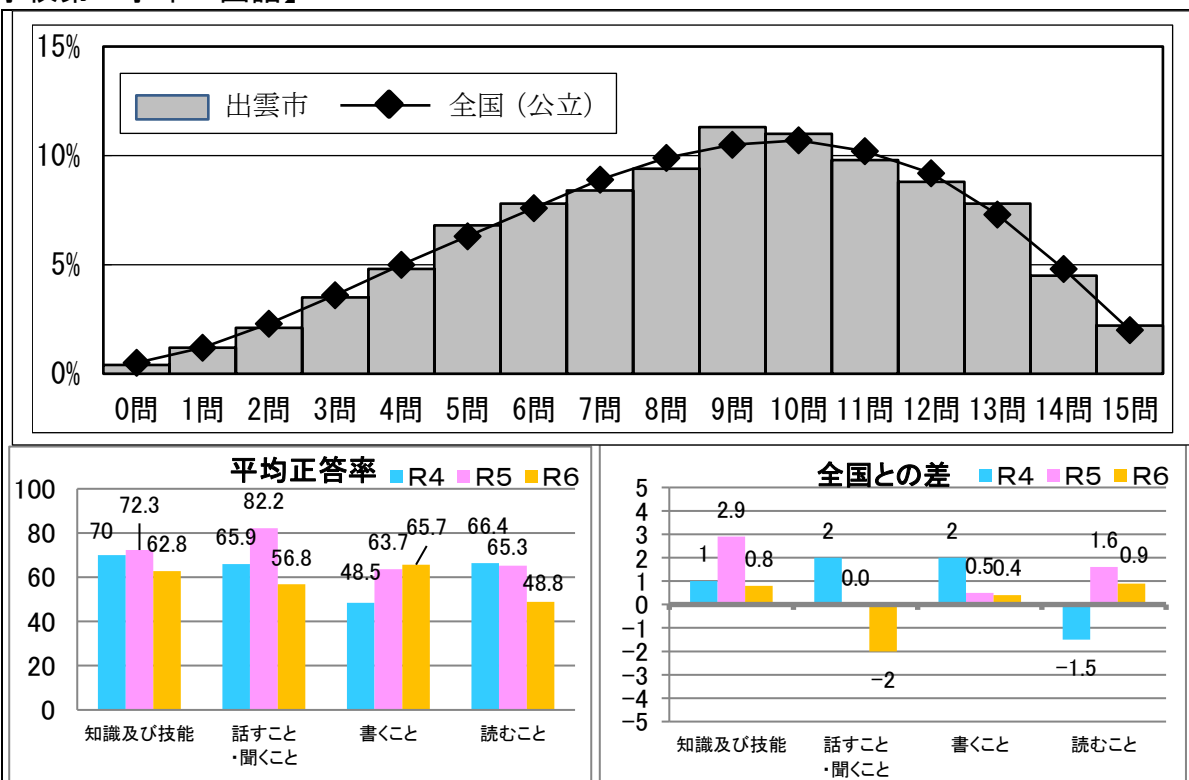
●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られる。

データの活用

○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができている。

●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述したり、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうか判断したりすることに課題が見られる。

【中学校第3学年 国語】



・高正答率（8割以上の正答：15問中12問以上の正答）の生徒の割合が23.3%であり全国（23.3%）と同程度である。また、中間層（4割から7割の正答：6問から11問の正答）の生徒の割合は57.7%であり、全国（57.8%）と同程度である。
○全国平均正答率との比較において、「話すこと・聞くこと」以外のすべての内容で全国より高い。

知識及び技能

《情報の扱い方に関する事項》

○具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができている。

《我が国の言語文化に関する事項》

○行書の特徴を理解することができている。

思考力、判断力、表現力等

《話すこと・聞くこと》

●資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことに課題が見られる。

●話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題が見られる。また、無解答率が全国と比べ、やや高い。

《書くこと》

○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができている。

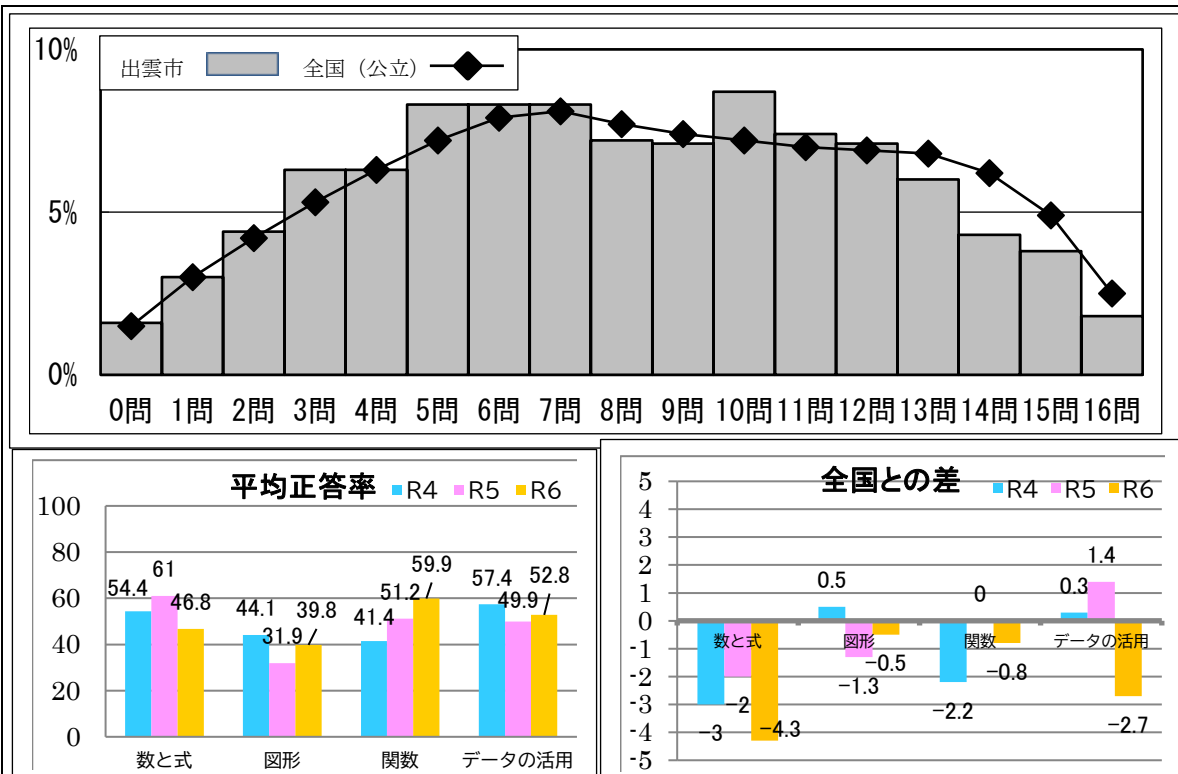
●表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題が見られる。

《読むこと》

・全国平均正答率との比較において、全国と同程度である。

●目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題が見られる。

【中学校第3学年 数学】



・高正答率（8割以上の正答：16問中13問以上の正答）の生徒の割合が15.9%であり全国（20.4%）を大きく下回る。中間層（4割から7割の正答：7問から12問の正答）の生徒の割合は45.8%であり全国（44.3%）と同程度である。

数と式

- 全国平均正答率との比較において、全国との差が依然として大きい。
- 問題場面における考察の対象を明確にとらえ、正の数と負の数の加法の計算ができています。
- 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことに課題が見られる。
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題が見られる。

図形

- ・全国平均正答率との比較において、全国と同程度である。
- 筋道を立てて証明することに課題が見られる。

関数

- 二つのグラフにおけるy軸との交点について事象に即して解釈することや、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができている。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。

データの活用

- 与えられたデータから最頻値を求めることができています。
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

4 学習状況調査の結果について（％）

（１） 児童生徒の質問紙調査の経年変化と全国平均との差 （全国調査から抜粋）

【生活や家庭学習に関すること ①～⑥】

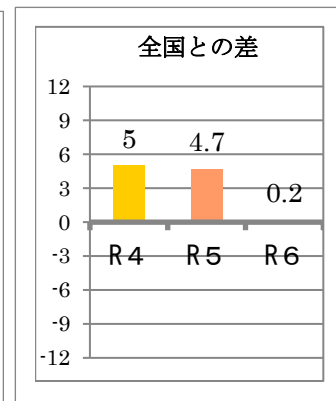
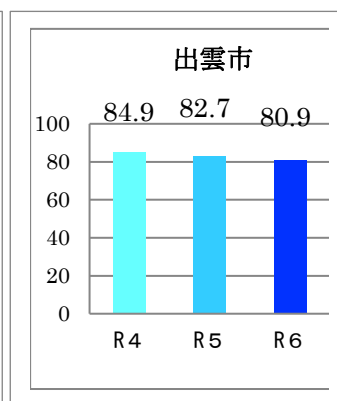
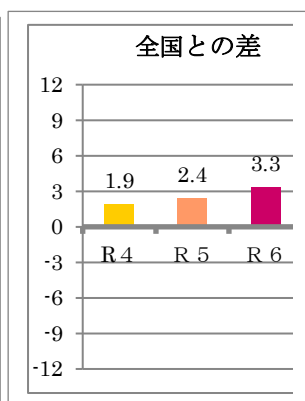
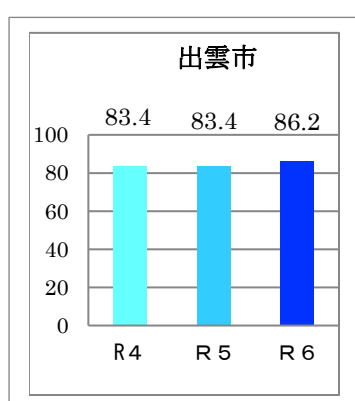
- ・ 8 割以上の児童生徒が、同じくらいの時刻に就寝している。
- ・ 8 割以上の児童生徒が「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答しており、自らの学びを広げ深めようとする児童生徒が多く見られる。中学校は全国をやや上回る。
- ・ 8 割以上の児童生徒が「自分にはよいところがある」と自己肯定感をもっている。とくに小学校では、年々肯定的な回答をする児童の割合が高まっている。
- ・ 「将来の夢や目標をもつ」と回答した児童の割合が 8 割を上回っている。中学校は、7 割程度であるが、全国と比較すると、同程度である。
- ・ 「新聞を週に 1 回以上読む」児童生徒の割合は、小学校は全国と同程度で、中学校は全国をやや上回る。
- ・ 8 割の児童生徒が「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答しており、ふるさとへの貢献意欲が高い児童生徒が多く見られる。

① 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

「している」「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第 6 学年

中学校第 3 学年

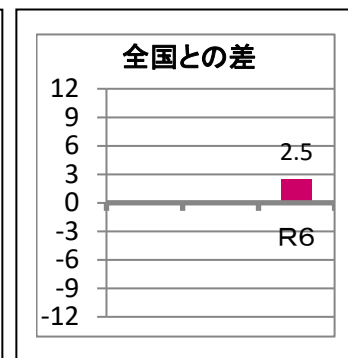
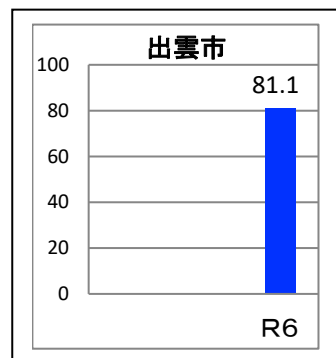
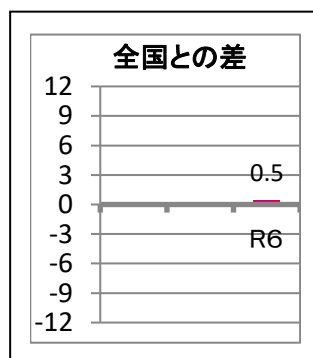
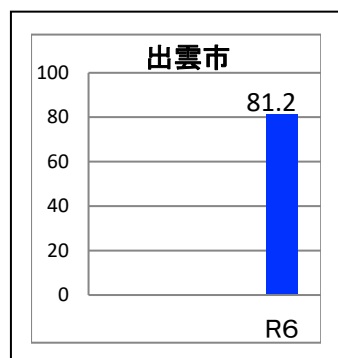


② 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

「できている」「どちらかといえば、できている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第 6 学年

中学校第 3 学年

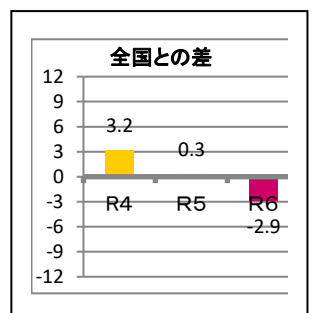
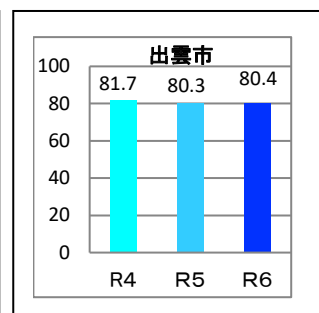
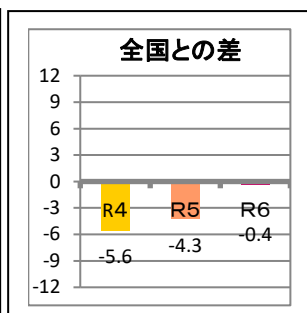
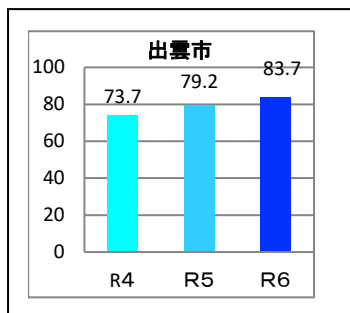


③ 自分には、よいところがあると思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

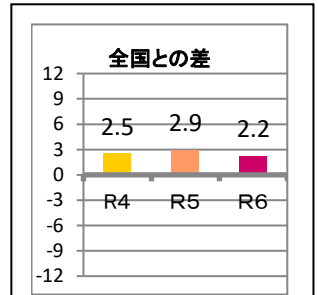
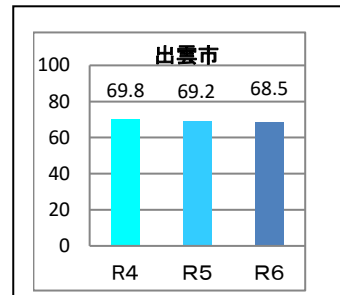
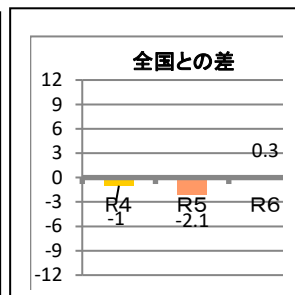
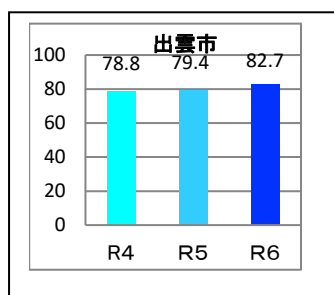


④ 将来の夢や目標を持っていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

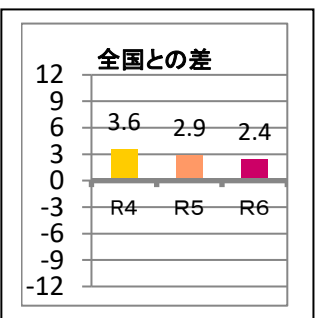
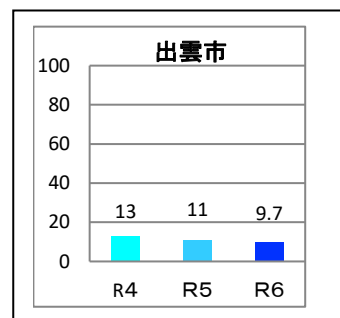
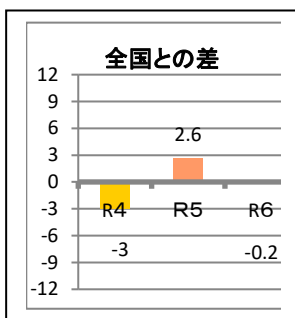
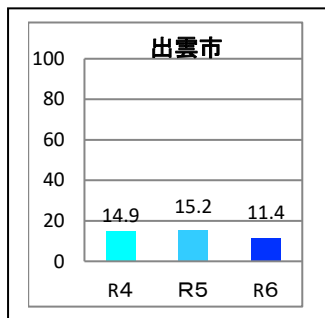


⑤ 新聞を読んでいますか。

「週に1回以上読んでいる」と回答した児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

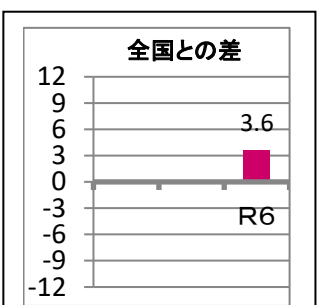
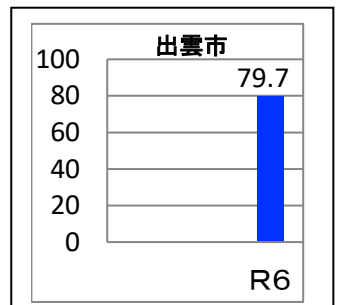
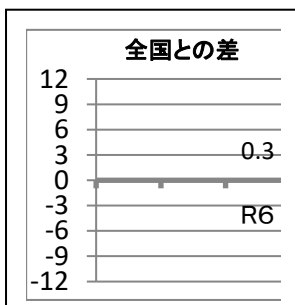
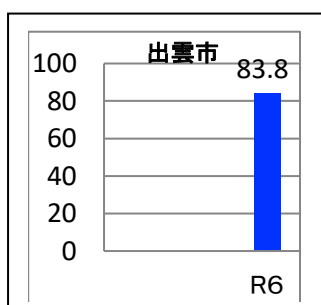


⑥ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



【授業に関すること ⑦～⑬】

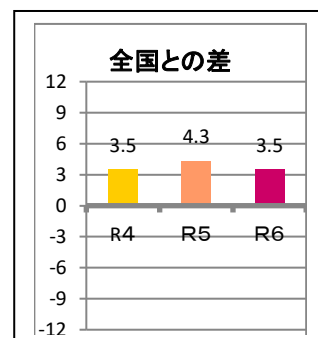
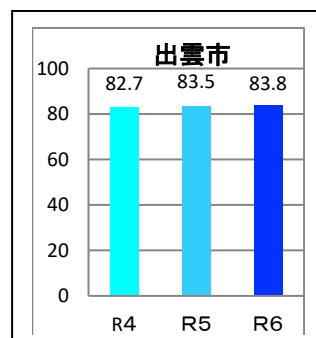
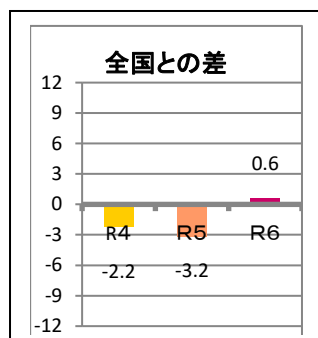
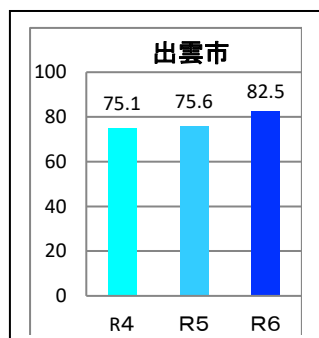
- ・小・中学校ともに8割以上の児童生徒が「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と回答しており、学習に向かう姿勢が定着している児童生徒が多く見られる。とくに中学校は、全国を上回っている。
- ・国語の「授業内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合が高まっており、とくに小学校において、その傾向が顕著である。小・中学校ともに児童生徒につけたい資質・能力を明確にした授業づくりが進められている成果である。また、算数においても肯定的な回答が昨年度に比べ、増加している。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答している児童生徒は年々増加しており、主体的・対話的で深い学びの視点をもった授業づくりが進められている成果である。
- ・「授業でI C T機器を週1回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、年々上昇傾向ではあるが、依然として全国との差が大きい。

⑦ 前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

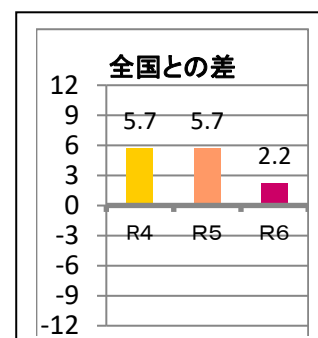
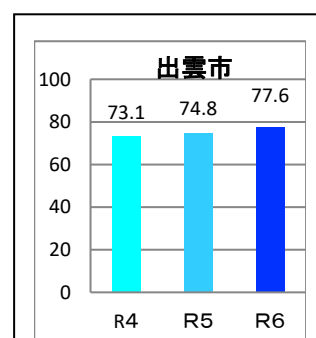
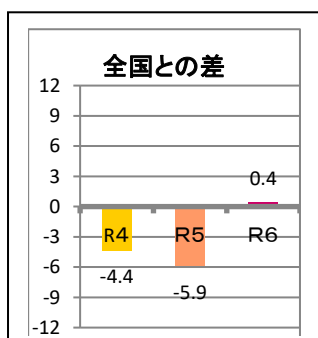
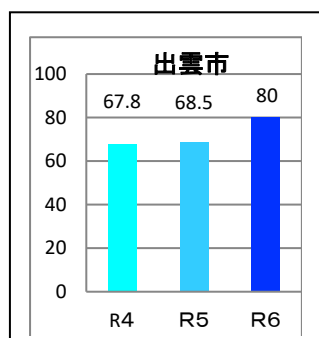


⑧ 前の学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

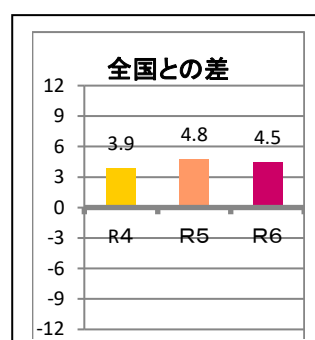
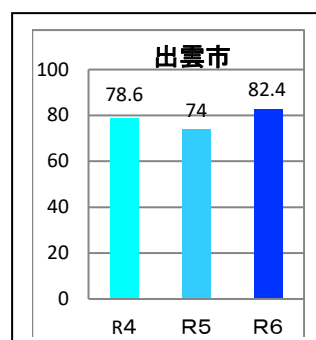
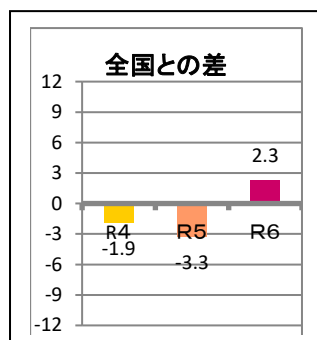
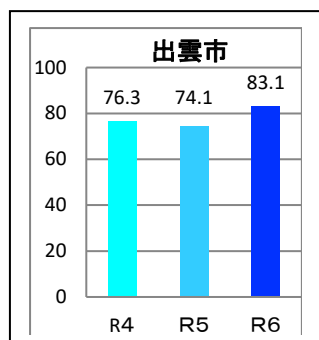


- ⑨ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

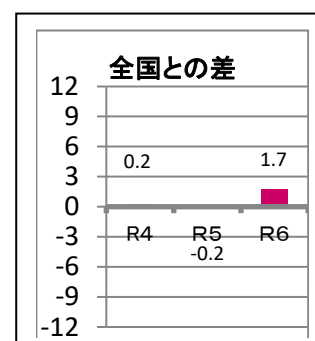
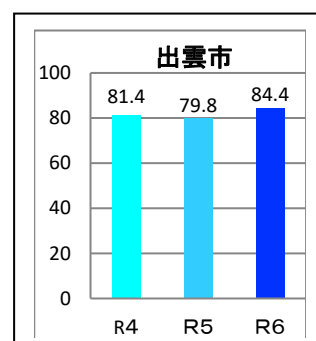
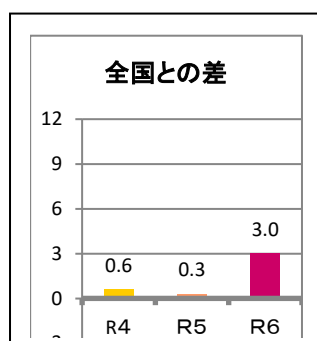
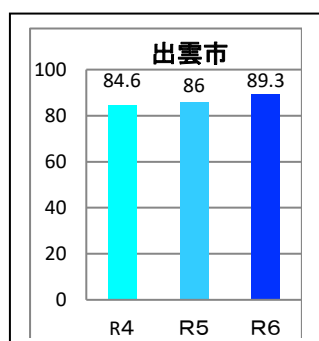


- ⑩ 国語の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

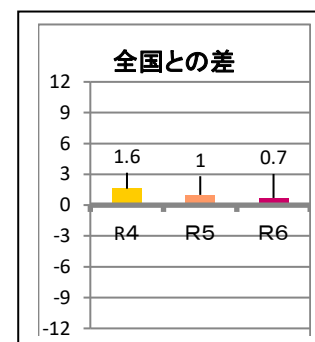
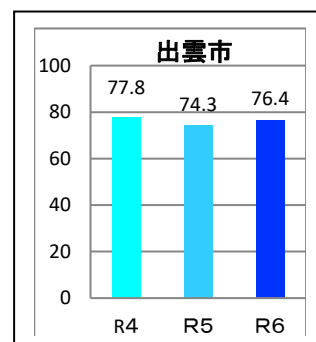
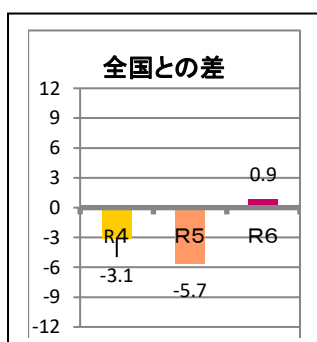
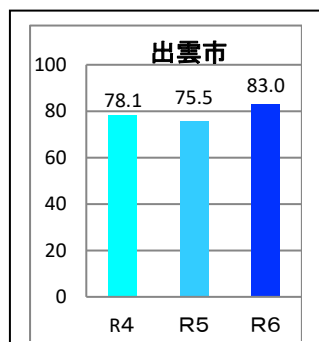


- ⑪ 算数/数学の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

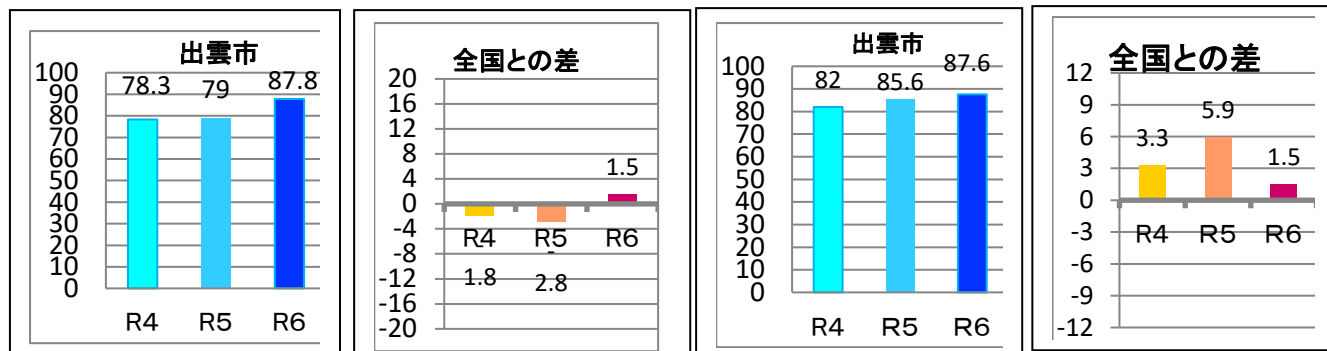


- ⑫ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

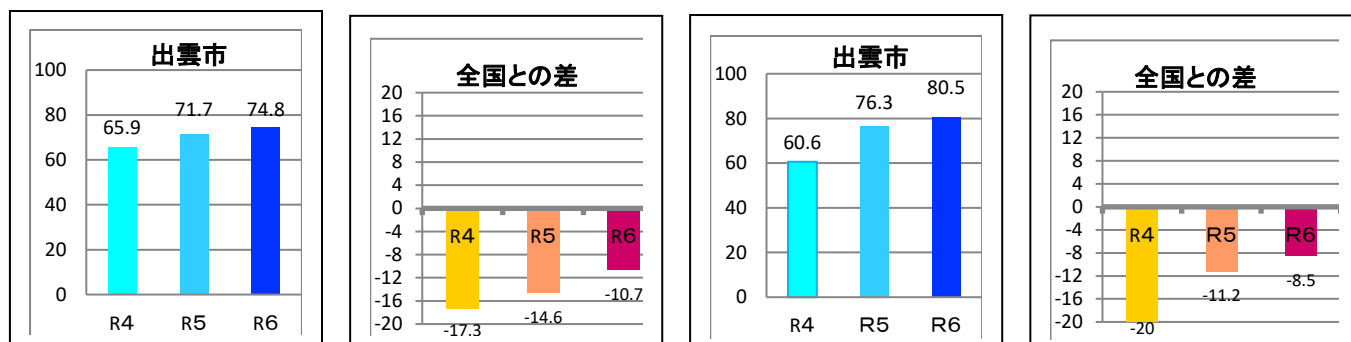


- ⑬ 前の学年までに受けた授業では、P CやタブレットなどのI C T機器を使用しましたか。

「週1回以上」と回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

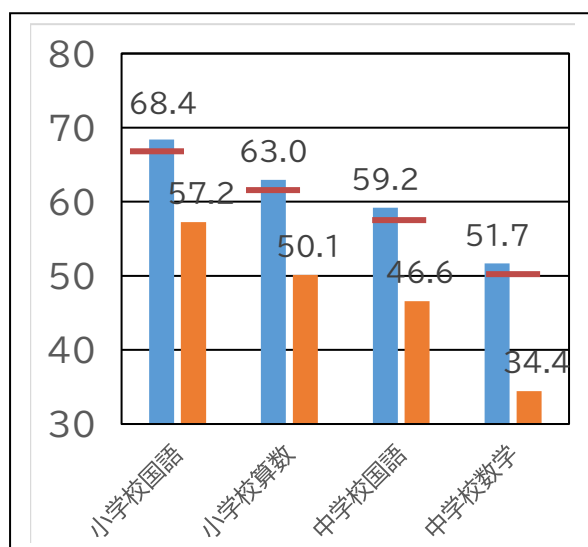


(2) 児童生徒の学習状況と教科の平均正答率 (全国調査から抜粋)

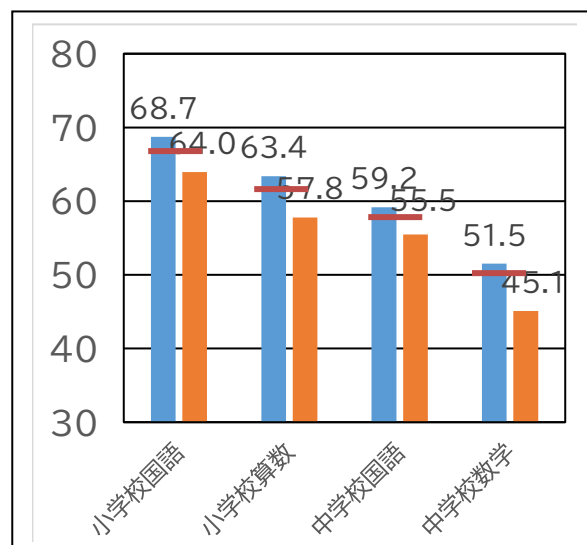
※ 次の①～⑮の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒を「肯定的回答群」、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒を「否定的回答群」としている。



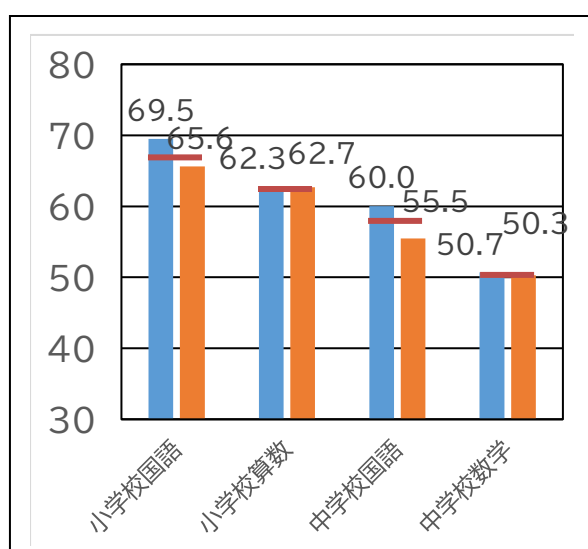
①朝食を毎日食べていますか。



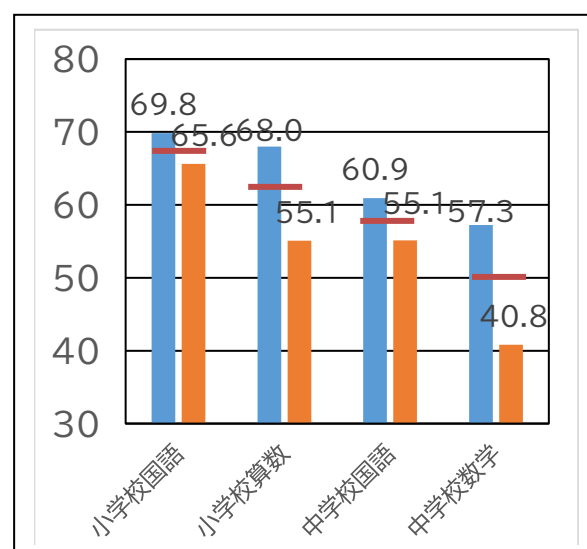
②学校に行くのは楽しいと思いますか。



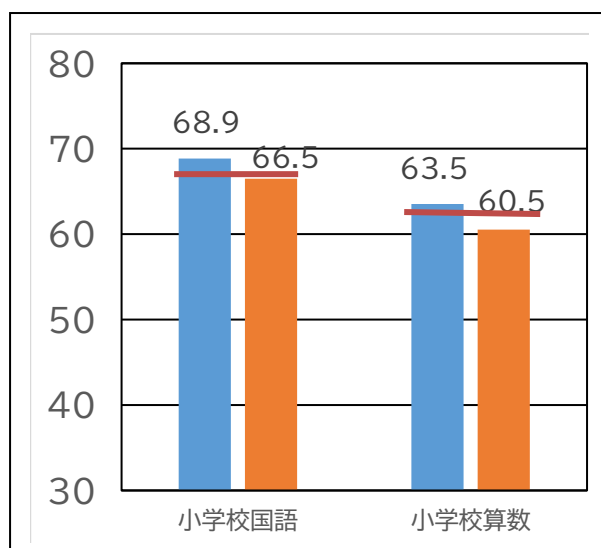
③国語の勉強は好きですか。



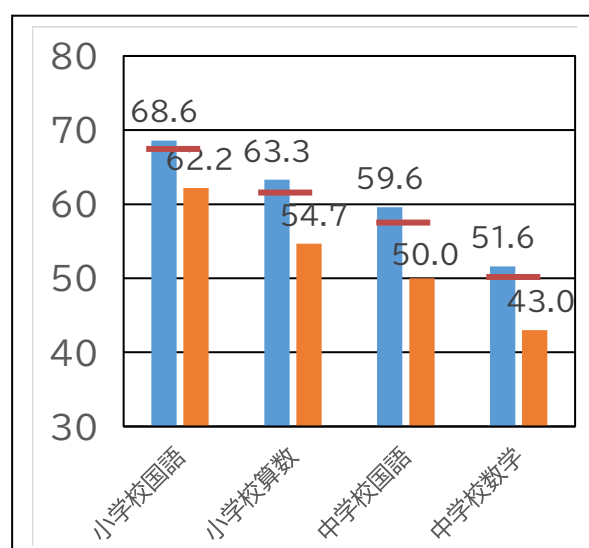
④算数・数学の勉強は好きですか。



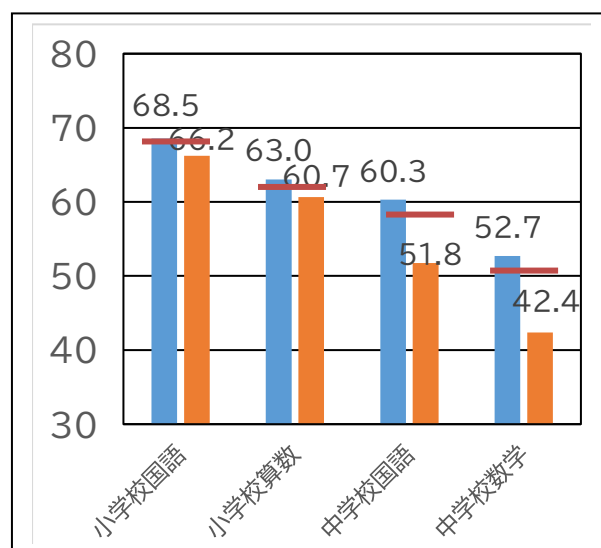
⑤英語の勉強は好きですか。



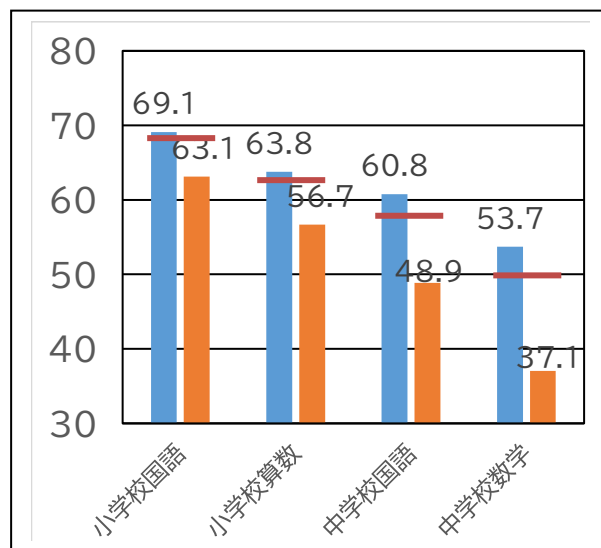
⑥先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。



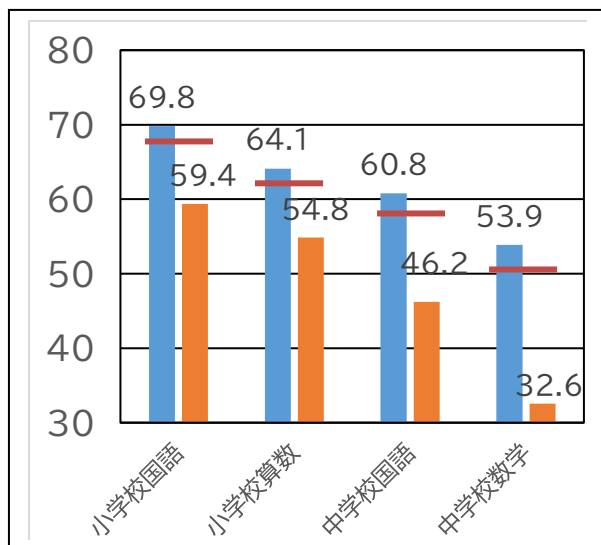
⑦自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



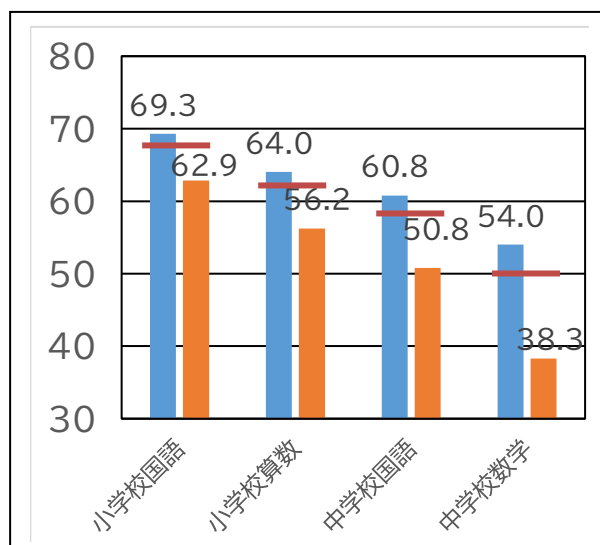
⑧分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



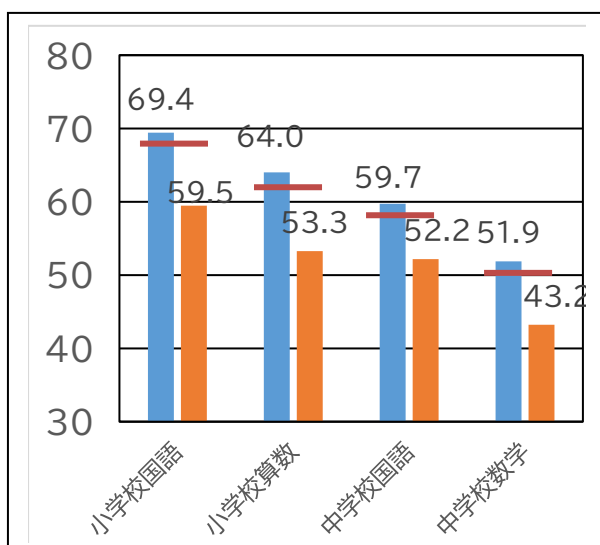
⑨授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



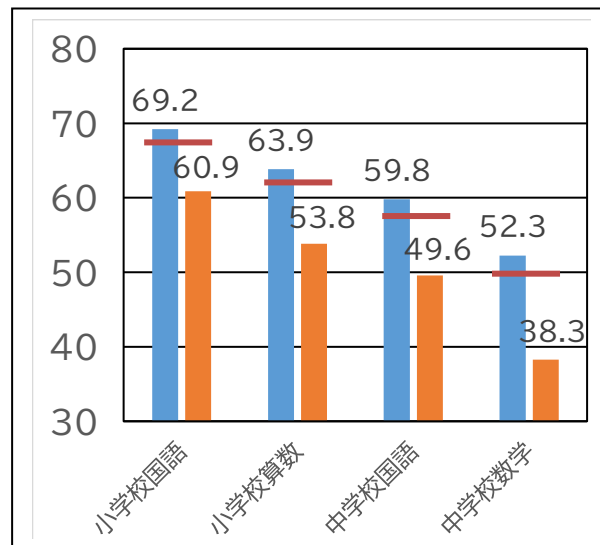
⑩授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



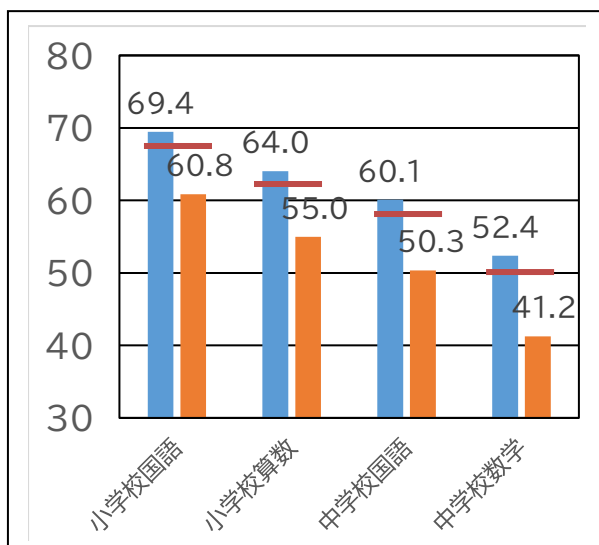
⑪授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



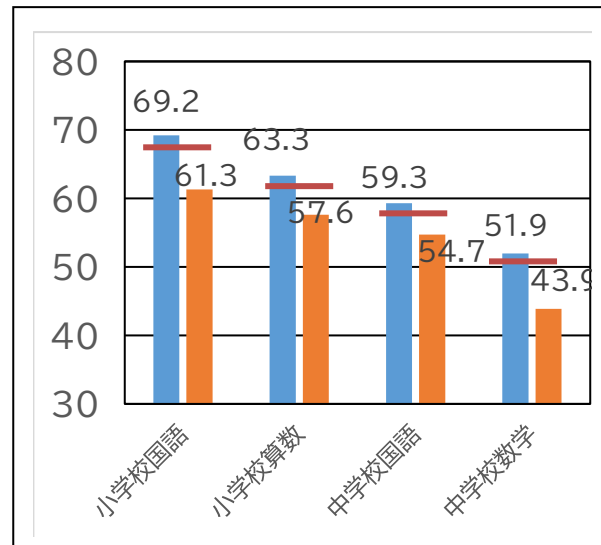
⑫学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。



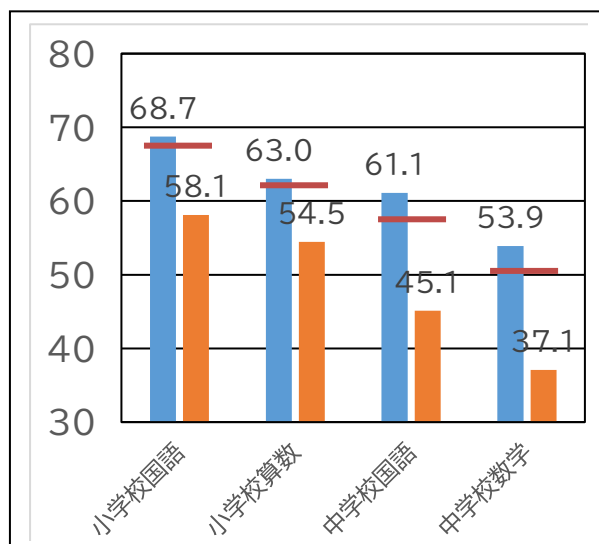
⑬学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができましたか。



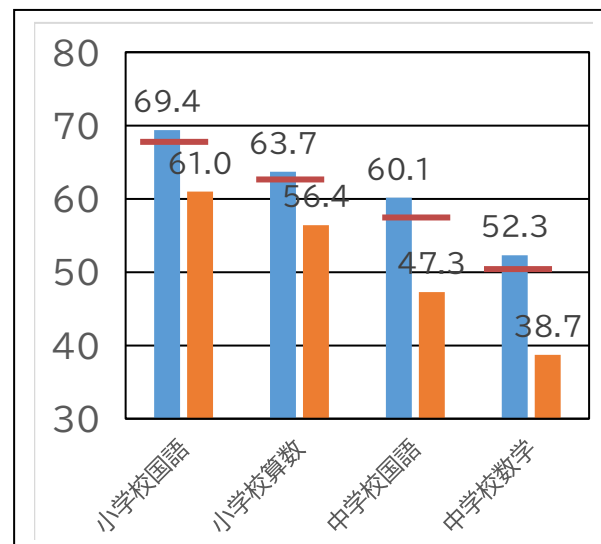
⑭授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか。



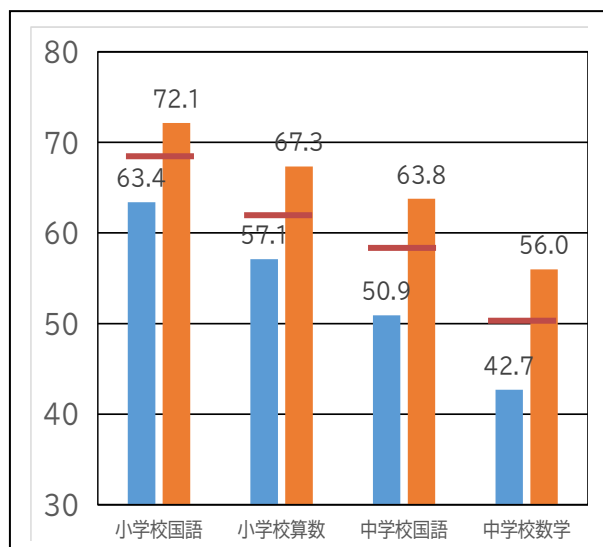
⑮授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



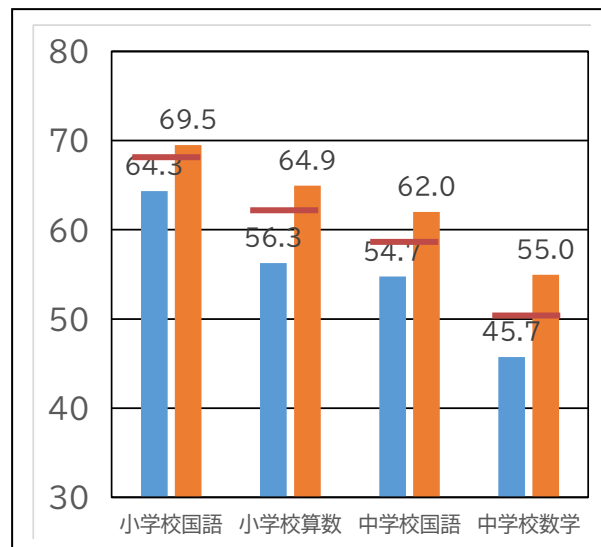
⑯総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



- ⑰平日、1日当たりどれくらいの時間、
テレビゲームをしますか。
- 2時間以上の児童生徒を「肯定的回答群」
2時間未満の児童生徒を「否定的回答群」とする。



- ⑱平日、1日当たりどれくらいの時間、
SNSや動画視聴をしますか。
- 2時間以上の児童生徒を「肯定的回答群」
2時間未満の児童生徒を「否定的回答群」とする。

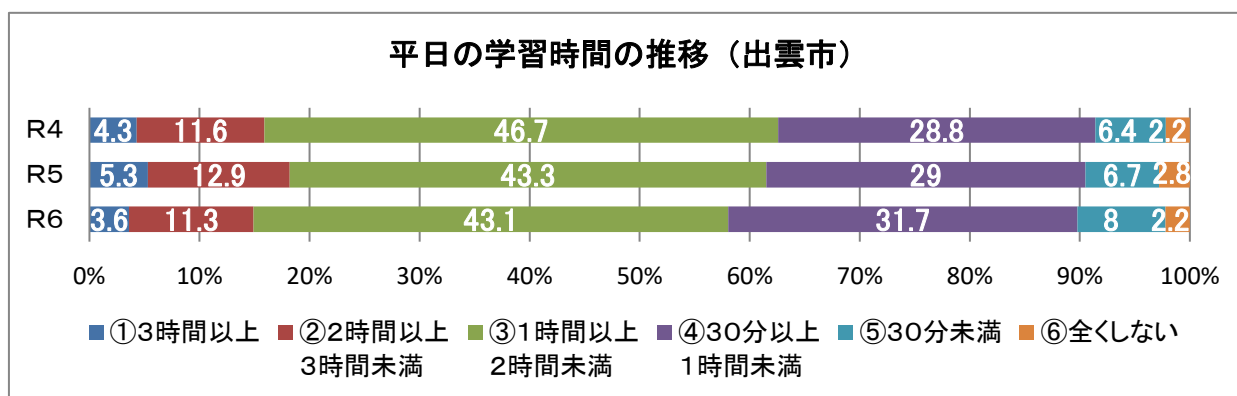
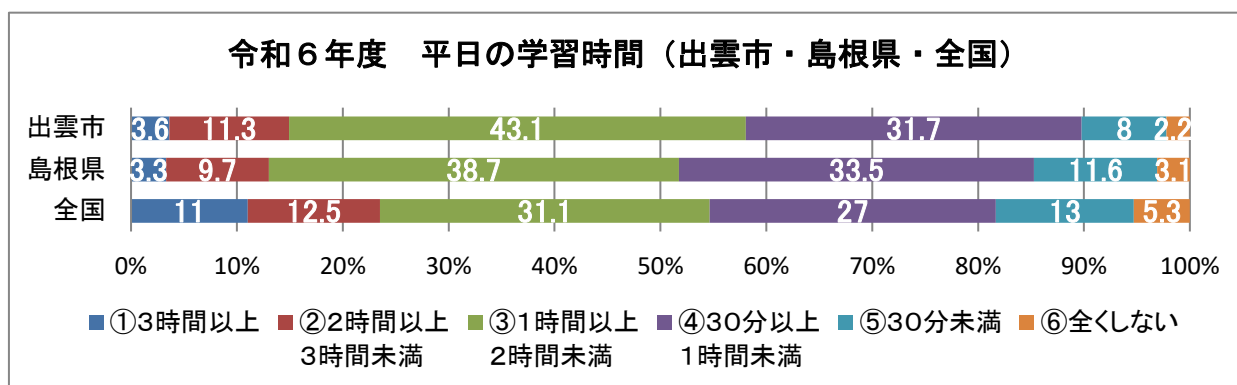


(3) 平日の家庭学習時間の状況

① 小学校第6学年

平日1時間以上学習する児童の割合は、島根県及び全国より高い。

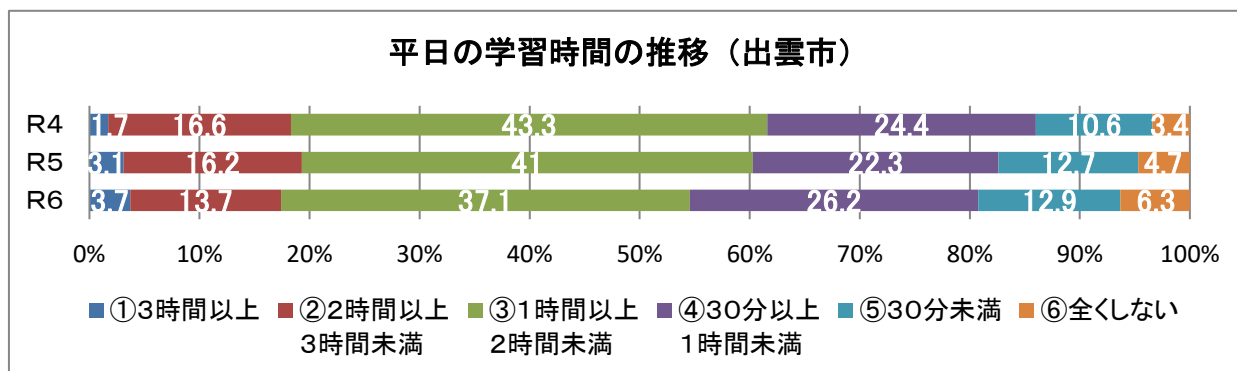
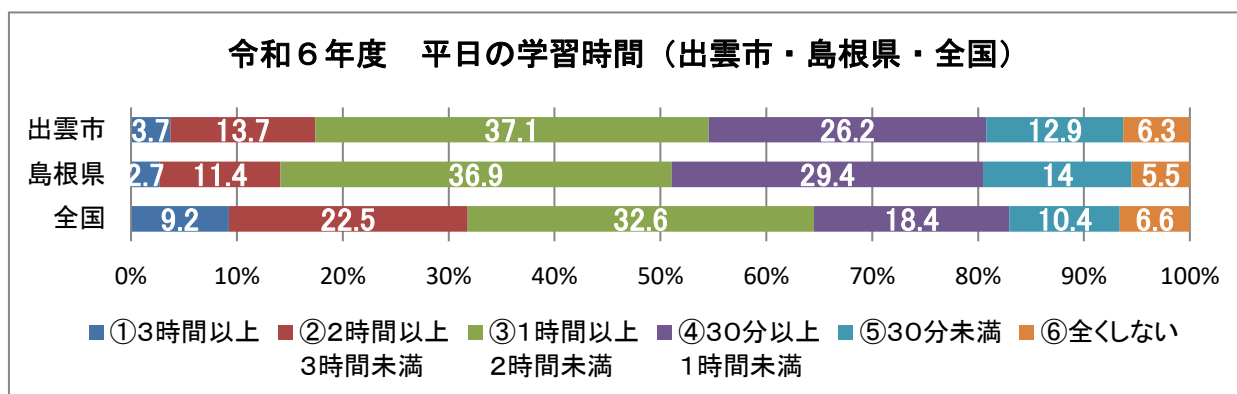
平日1時間以上学習する児童の割合は、減少傾向であり、学習時間の確保が課題である。



② 中学校第3学年

平日1時間以上学習する生徒の割合は、島根県より高いが全国より低い。

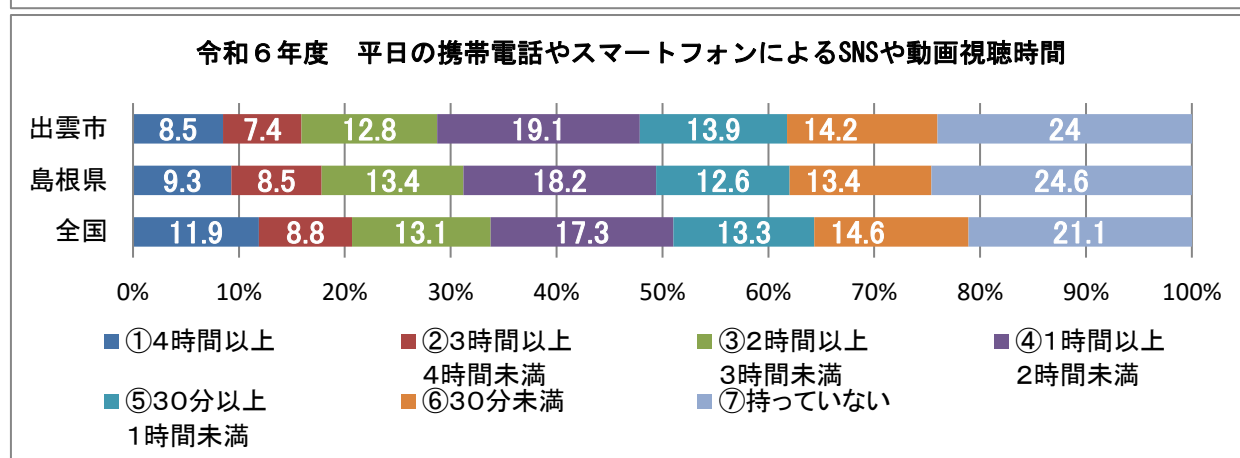
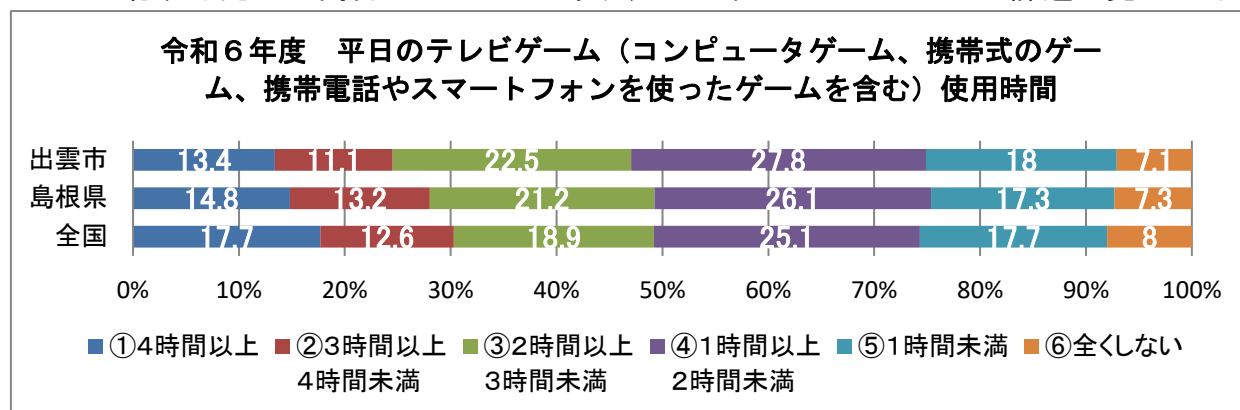
平日1時間以上学習する生徒の割合は、減少傾向であり、学習時間の確保が課題である。



(4) 平日の情報機器・メディア等との接触時間の状況

① 小学校第6学年

平日に2時間以上ゲームをする児童の割合は47%、2時間以上SNSや動画を視聴する児童の割合は28.7%であり、メディアコントロールに課題が見られる。



② 中学校第3学年

平日に2時間以上ゲームをする生徒の割合は40%、2時間以上SNSや動画を視聴する生徒の割合は47.7%であり、メディアコントロールに課題が見られる。

